

世田谷区手をつなぐ親の会・一般社団法人つながりラボ世田谷
令和元年世田谷区提案型協働事業 報告書

事業目的：世田谷区の提案である「障害者通所施設の休日を利用した一部開放の試験的運用」

1 補助事業の実施方法

「世田谷区手をつなぐ親の会」が区からの補助を受け、親の会有志により設立された一般社団法人つながりラボ世田谷が企画・運営を担い、事業を実施した。

◆事業の周知を図り、協働事業への理解と参加を求めた。

- ・チラシ 1500 枚作成および配布・・・世田谷区手をつなぐ親の会会員に配布および区の関係する場所にチラシを置かせていただいた。
- ・手をつなぐ親の会 HP およびつながりラボ世田谷 HP に情報アップ。
- ・毎月発行の親の会通信、毎月開催の親の会理事会にて協働事業の進捗状況を報告した。
- ・事業実施日の近くになると、参加者へメール、FAX、電話などいろいろな手段で連絡を入れ、参加率のアップを図り、直前まで参加を受け付けられる体制を取った。
- ・毎回参加者からはアンケートに協力いただいた。

◆プログラムの実施（8回実施、1回中止）

回数	実施日	内 容	参加者数 (人)	場 所
1	2019年7月14日	フラワーアレンジメント	10	区立砧工房
2	2019年7月27日	英語であそぼう	7	〃
3	2019年8月31日	アート	11	〃
4	2019年9月28日	アート	6	〃
5	2019年11月23日	本人活動「Setagaya アミーゴ」 全体交流会	29	区立千歳台福祉園
6	2019年11月30日	LLブック講座	16	区立砧図書館
7	2019年12月22日	フラワーアレンジメント	10	区立砧工房
8	2020年1月19日	ヨガ講座1	11+1	区立千歳台福祉園
9	2020年2月22日	ヨガ講座2はコロナウィルスの影響を考慮し、中止	予定では 17名	区立千歳台福祉園

参加者合計 101人（親の参加者1人を含む）

実施場所所在地

世田谷区立砧工房：世田谷区砧4-32-14 就労継続支援B型通所施設

世田谷区立千歳台福祉園：世田谷区千歳台3-31-9 生活介護通所施設

世田谷区立砧図書館：世田谷区祖師谷3-10-4

◆アンケートの実施

アンケートは昨年同様、(1)施設管理面および(2)余暇活動そのものに関する参加者の反応を探るという2つの目的を持ったものである。

(1) 施設管理面

①砧工房

- ・参加者からは施設に関しては、特に課題となる回答は寄せられなかった。
- ・個人情報のある事務室は昨年度鍵を取りつけており、当日は何も配慮することはなかった。
- ・昨年度同様、参加者の皆さんはこちらの指示に従ってくださり、作業に支障が出るような行動や不満はなかった。

②千歳台福祉園

- ・当日は利用者に分かりやすいように、靴置き場、ここから上は上れません、トイレ、などの表示を作り、施設内に掲示したので、参加者は入っていけないスペースに立ち入ることはなかった。また個人情報は事務室にしかないのも、鍵の開け閉め等の管理は必要だが、今回は施設側が配慮して下さり、運営するほうとしては何の問題はなかった。
 - ・施設的环境としては、廊下も広く、トイレも使いやすくとてもよかった。また、ヨガの実施の際には、床暖房がとてもありがたかった。
 - ・参加者の感想として言われたことは、11月23日のアミーゴ交流会でシッティングバレーをした際、天井が低くてやりにくかったということのみで、このほか問題となる点はなかった。プログラムの選び方や進行にひと工夫が必要だったということである。
- 総合的には、施設管理面としては、当日は当該施設の施設長と地域生活課の職員の方が、必ず事前に施設を開け空調などもその都度配慮をいただいたので、初年度として問題はなかった。

③砧図書館（LLブック講座）

前日光明学園で講師の方との進行についての打ち合わせを予定していたが、講師の体調不良により、当日ぶっつけ本番となってしまい、悔いが残ったプログラムであった。

講座の内容が本に関わるものなので、無理を言って図書館を使わせていただき、感謝している。雰囲気としてはとてもよかったと思っている。

(2) 余暇活動に関する参加者の反応と意識について

実施日	① 参加者について 講座名	参加人数	参加した本人の年齢					日中活動の形態				
			10代	20代	30代	40代	50代	生活介護	就労継続B	就労移行	就労	その他
7/14	フラワーアレンジメント	10	1	5	2	1	1	1	4	1	4	0
7/27	英語で遊ぼう	7	2	2	1	2	0	0	2	1	3	1
8/31	アート講座1	11	2	6	1	1	1	0	8	1	1	1
9/28	アート講座2	6	0	5	0	1	0	0	6	0	0	0
11/23	アミーゴ交流会	29	3	11	4	10	1	1	11	1	15	1
12/22	フラワーアレンジメント	10	2	5	2	0	1	1	5	1	3	0
1/19	ヨガ講座1	11	3	4	2	2	0	1	4	2	4	0
計	合計(人)	84	13	38	12	17	4	4	40	7	30	3
	割合(%)		15	45	14	20	5	5	48	8	36	4

① 小さくても集団の活動となるので、参加者は就労継続B型と就労の人が多い。ガイドヘルパーと一緒にマンツー外出は生活介護の人の方が利用度が高いのだろうか。

この数字からは読み取れないが、2年継続しているプログラムは、参加者が固定してきている部分もある。好きなプログラムを選んで参加するようになってきていると思われる。

高等部を卒業した10代の参加者が昨年度と比較して増えているのが分かる。事業が浸透していけば、今後少しずつ放課後等デイを卒業した10代の参加者が増えてくるだろうと思う。

実施日	② 誰と来ましたか？ 講座名	参加人数	②					その他 親族
			1人で	友達と	家族と	ヘルパー	その他	
7/14	フラワーアレンジメント	10	5	0	4	1	0	
7/27	英語で遊ぼう	7	1	3	3	0	0	
8/31	アート講座1	11	1	0	7	2	1	
9/28	アート講座2	6	1	0	6	0	0	
11/23	アミーゴ交流会	29	9	7	11	2	0	
12/22	フラワーアレンジメント	10	3	0	5	1	0	
1/19	ヨガ講座1	11	5	0	6	0	0	
計	合計(人)	84	25	10	42	6	1	
	割合		30	12	50	7	1	

・慣れない場所、初めての場所の場合には、やはり家族の送迎が50%と多い。

このため、家族の体調により、参加できなくなることもある。しかし、経験を積めば自力でできるようになる人も多い。

・外出する時は固定のヘルパーと一緒に、という人がどの位の割合でいるのだろうか。家族と一緒にが目立つ。

③ 会場までの交通機関

実施日	講座名	参加人数	あるき	電車	自転車	自家用車	タクシー	バス	その他
7/14	フラワーアレンジメント	10	6	6	0	2	1	2	0
7/27	英語で遊ぼう	7	4	1	0	2	0	2	0
8/31	アート講座1	11	2	2	1	3	0	3	0
9/28	アート講座2	6	2	0	0	2	2	0	0
11/23	アミーゴ交流会	29	2	11	0	8	2	16	0
12/22	フラワーアレンジメント	10	2	4	0	2	1	2	0
1/19	ヨガ講座1	11	5	1	0	2	0	4	0
計	合計(人)	84	23	25	1	21	6	29	0

複数回答のため割合は記載せず

③ 千歳台福祉園に来る交通手段はバスなので、割合としてはバス利用が高い。あるきは自宅から公共交通機関の駅まで、および、バス停から施設までが含まれていると思われる。ガイドヘルパーを利用して余暇をエンジョイできるようになってほしい。

④ 会場までかかる時間はどれくらいですか？

実施日	講座名	参加人数	約15分	約30分	約45分	1時間	記入なし
7/14	フラワーアレンジメント	10	1	3	1	3	2
7/27	英語で遊ぼう	7	1	5	0	1	0
8/31	アート講座1	11	0	5	6	0	0
9/28	アート講座2	6	3	1	2	0	0
11/23	アミーゴ交流会	29	8	7	8	6	0
12/22	フラワーアレンジメント	10	2	3	2	2	1
1/19	ヨガ講座1	11	6	3	1	1	0
計	合計(人)	84	21	27	20	13	3
	割合(%)		25	32	24	15	4

④ 参加するのは、会場までに要する時間が1時間以内(81%)の人だということが分かる数字である。会場があまり遠くなると、参加はしなくなる。今年度も会場となる施設は2つとも砧地区であったが、地域に偏りなく、行きやすいところに使える施設があることがベストなのは当然である。

⑤ 今日は楽しかったですか？

実施日	講座名	参加人数	とても楽しかった	普通	あまり楽しくない	記入なし
7/14	フラワーアレンジメント	10	8	0	0	2
7/27	英語で遊ぼう	7	5	2	0	0
8/31	アート講座1	11	7	2	0	2
9/28	アート講座2	6	4	2	0	0
11/23	アミーゴ交流会	29	23	3	0	3
12/22	フラワーアレンジメント	10	7	2	0	1
1/19	ヨガ講座1	11	7	3	1	0
計	合計(人)	84	61	14	1	8
	割合(%)		72.6	16.7	1.2	9.5

⑤ 参加してとても楽しかったが72%を超え、参加者が満足していることが伺える。日中活動の場を離れて、新しい友達とも出会え、世界が広がる。好きなことをして過ごす時間は、生活を豊かにするだろう。普通の人と同じである。

⑥ 昨年度も含め、今までプログラムに参加したことがありますか。
それとも初めてですか？

実施日	講座名	参加人数	今回が初めて	参加したことがある
7/14	フラワーアレンジメント	10	3	7
7/27	英語で遊ぼう	7	2	5
8/31	アート講座1	11	8	3
9/28	アート講座2	6	2	4
11/23	アミーゴ交流会	29	10	19
12/22	フラワーアレンジメント	10	0	10
1/19	ヨガ講座1	11	0	11
計	合計(人)	84	25	59
	割合(%)		30	70

⑥ 初めての参加者が30%となっているが、余暇の楽しさを感じるようになると、参加者が固定されて「参加したことがある」の割合が高くなるだろう。その時のためにも、場所の確保が大切となってくると思う。

⑦ 余暇活動をする曜日と時間帯について

実施日	講座名	参加人数	土曜日			日曜日		
			午前	午後	夜	午前	午後	夜
7/14	フラワーアレンジメント	10	3	5	1	3	5	1
7/27	英語で遊ぼう	7	6	3	0	1	2	0
8/31	アート講座1	11	6	4	0	5	4	0
9/28	アート講座2	6	2	4	0	0	0	0
11/23	アミーゴ交流会	29	—	—	—	—	—	—
12/22	フラワーアレンジメント	10	3	6	0	4	8	0
1/19	ヨガ講座1	11	5	4	0	5	2	0
計	合計(人)	84	25	26	1	18	21	1

⑦ さすがに夜でも可というのは少なかったが、希望する時間帯と曜日に目立った差がないことが分かった。余暇は土曜日、日曜は疲れをとり、月曜日からの仕事のために休養を取る、という思い込みが崩れ、新しい発見だった。

⑧ このような活動があればまた参加しますか？

実施日	講座名	参加人数	また参加したい	まだ決めていない	参加しない	回答なし
7/14	フラワーアレンジメント	10	9	1	0	0
7/27	英語で遊ぼう	7	4	2	0	1
8/31	アート講座1	11	7	2	2	0
9/28	アート講座2	6	6	0	0	0
11/23	アミーゴ交流会	29	26	1	1	1
12/22	フラワーアレンジメント	10	7	1	0	2
1/19	ヨガ講座1	11	9	1	1	0
計	合計(人)	84	68	8	4	4
	割合(%)		81	9	5	5

⑧ 「参加をしたい」が81%と高かった。

休日に本人が好きなおことに熱中する時間を持てることは、家族にとっても大きな喜びである。生活を豊かにする余暇活動の場所として使える施設の開放に向けて頑張りたい。

2 補助事業の成果の具体的内容

砧工房

◆2年目となる実施施設なので、計画通り、運営する側が施設から鍵を事前に受け取り、当日は自力で施設を開け、終了後は手順書に従い、自力で施設を閉め、施設に鍵を返却するという事にトラブルはなかった。

セキュリティの解除については、ある程度の緊張感はあるにしても、今回のようなやり方に慣れば大きな負担感はないので、現実的には砧工房においては、今回の方法は実行可能と思う。

◆体調不良の方がいらっしゃった場合の対応については危惧していたが、幸いにも事例がなかった。法人としては、対応キットを持参して事業を行っているが、実際に起きた場合に正確な対応ができるのか、今後の課題である。

今年は暖冬だったため、重大な感染症に遭遇しなかったが、事業を継続する中で、いずれ直面することだという認識を大にした。

千歳台福祉園

◆来年度の課題として砧工房の時と同様に、自分たちだけで開閉は可能なかどうかは今後の検討課題と考えたが、施設側からの意見も頂いたので、ここに挙げておく。

- ・個人情報事務室にしかない鍵の開け閉め等の管理は必要。
- ・鍵は地区会館の中にあるため、開いていけば難しくはないと思う。
- ・実際に様子を見て貸し出しするのにそこまで心配はないと思った。
- ・ただし今回は知っている団体という点も大きかった。
- ・違う団体への貸し出しであればまた検討が必要。

◆1階が入り口、2階に実施場所があるので、到着が遅くなる参加者のためには、玄関のドアを閉めないで、待っているスタッフの配置が必要となる。

◆施設にはバスで来ることになるが、下車する停留所を間違えて、本人が行方不明となった。携帯を持っていても、知らない人からの電話を取らないようにというご家庭の教育が行き届いているため、本人と連絡が取れず、バスと駅の間を探し回った。

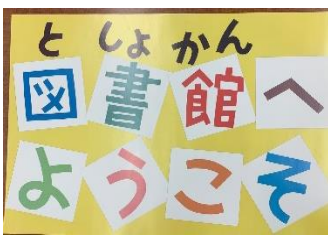
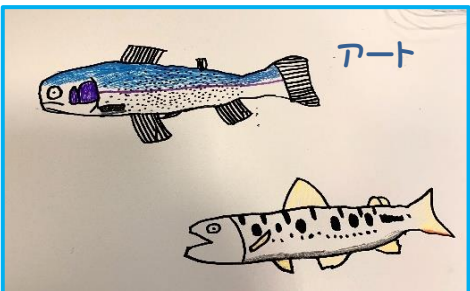
このようなことを想定した家との連絡方法は一考を要すると感じた。

3. 成果の自己評価

- ・砧工房の今年度の目標は、施設の開閉を自分たちでやってみる、ということであったが、クリアできたと考える。
- ・千歳台までは最後はバスを使うので不安もあったが、本人たちにとっては、大した混乱もなかった。
- ・少しの間本人が行方不明になったことで、ヒヤリハットに対する対応を運営する方も考えておかなければならないことを実感できた。
- ・細かい設問のアンケートを実施することにより、本人たちの余暇活動に対する期待を感じることができた。楽しかった、また参加したいという声は、私たちの励みになった。
- ・次年度のために、本人たちからのアンケートはとても有意義であった。
- ・プログラムの多様性は大切に、運動系の余暇活動が多い中、屋内でやれるプログラムは

とても喜ばれたと思う。

- 土日が充実した、回数を増やしてほしい、定期的な余暇活動の実施をしてほしい、というご家庭からの声に寄り添って行きたい。
- LLブックについては、息の長い活動として考え、本人たちの声も生かしながら、出版元と連携しながら関わって行きたい。



(終)